

核の被害を繰り返すな！ 原発と核兵器の根っこは同じ

●ふる里を奪い、命と健康を脅かす原発

地震と津波により多くの人々の命と暮らしが奪われただけでなく、原発の事故によって新たに何万という人々がふる里を追われ、健康と命の危険にさらされ続けています。

放射能は気流に乗って東葛地域にも達し、流山や柏などをホットスポット＝高濃度汚染地域に変えました。子どもたちが通う学校や幼稚園などの敷地内でも、放射線管理区域を越える汚染が確認されています。

問題が放射能汚染であるために、私たち市民は、今後も長期間にわたって、この問題と向き合うことを余儀なくされています。

●原発と核兵器の根っこはひとつ

広島・長崎への原爆投下は何十万人という犠牲者を出しました。ビキニの水爆実験によってマーシャル諸島の人々や第五福竜丸の船員が犠牲になりました。チェルノブイリ原発事故はウクライナを超えて全世界に被害をもたらしました。東海村JCOの臨界事故では2名が死亡、数百名が大量被爆しました。

日本に原発が建設されて以来、正確な数字は不明なもの、おびただしい数の下請けや日雇いの労働者が犠牲になったと見られています。

原子力発電と原子爆弾の原理は、同じです。最初に戦争の道具として核兵器が生み出され、次にその巨大なエネルギーを産業に利用しようと原子力発電所がつくられました。核分裂のエネルギーを、一方は戦争の道具として、他方は発電の熱源として用いたものですが、どちらも人がコントロール下に置くことが不可能な、莫大な量と、遺伝子を直撃するマイクロレベルの破壊力を持った、死の灰＝放射性物質を生み出さずにはいません。

●核と戦争に反対しよう！

原発で経済を支え、ゆたかな暮らしを実現しようという主張は、多くのウソの上に成立したものであり、結局は破綻せざるを得ませんでした。

今も核兵器によって平和を維持しようとの主張が唱えられ続けていますが、この主張も、原発と同様、おびただしいウソや欺瞞や利権に支えられたもの、そして暴走の危険性を胎んだものです。

憲法九条を捨てろと言う人々の中には、「日本も核武装を」と唱える者も少なくありません。戦争と核による犠牲者を再び出さないために、「九条守れ、活かせ」の声をともに上げていきましょう。

九条の会・流山

■連絡先
TEL/FAX

石林紀四郎 (04-7154-7511) 三原真子 (04-7152-6559)
山田洋子 (04-7144-3993)

本のご紹介

「九条の会」憲法セミナー⑩ 核のない平和な世界と憲法九条

平岡敬／高遠菜穂子



<目次>

◇核廃絶と創り出す平和 平岡敬

政権交代とマスコミ / 偏狭な国家主義とマスコミ / 価値観を共有する同盟国であるなら / 日米安保条約と憲法九条 / 迷走する民主党 / 新安保懇報告と防衛大綱 / 日本の安全保障に絡む利権とアメリカの要求 / 我われの怒りの声は / 世界の核の状況—オバマ大統領のプラハ宣言 / 被爆国の権利と義務 / 平和のための戦争で殺される人びと / 軍産複合体と政治 / 「平和」を問い直す / 人間の尊厳と平等 / マスコミと教育 / 日常の暮らしのなかで平和を築く

◇命に国境はない—イラク戦争とは何だったのか？ 高遠菜穂子

はじめに / イラクの地理と宗教 / コインの表裏 / アブグレイブ—戦争犯罪と冬の兵士たち / ラマディー—赤ちゃんの墓標 / イラク戦争の崩れた大義 / たくさんのイラク人が海外旅行を楽しんでいますよ / 大規模戦闘終結宣言とイラク初入国 / 市民の怒り—遅かれ早かれ、蹴り出してやる / 三つ巴の戦い / 報道の見えない壁 / 安全管理と米軍 / 自衛隊への注目と誤解 / 二回のファルージャ総攻撃 / 臭いが染み付いてとれない / 「戦争放棄はしても、戦争サポートはいいのか」

◇質問に答えて

(10冊以上お求めの場合は250円)、送料別途

申込みは、九条の会事務局

FAX 03-3221-5076 メール mail@9jounokai.jp

「人間と環境への低レベル放射能の脅威 —福島原発放射能汚染を考えるために」

帯のことば—いま、福島原発事故の放射能汚染の深刻さを見定めるために
そして、未来を生きる子供たちのために

ラルフ・グロイブ、アーネスト・スターングラス著
肥田舜太郎・竹野内真理訳

あけび書房 (<http://www.akebi.co.jp/>) 03-3234-2571 akebi@s.email.ne.jp 3990円 337頁



低線量被曝問題をつぶさに扱った本です。

共訳者は、広島原爆で被曝した医師である肥田舜太郎さんです。長年被爆者の治療を行うとともに、国際的な反核活動や低線量内部被曝問題にも数々の翻訳を通して従事されてきた方です。

低レベルでも恐ろしい放射能による障害を国内外の研究論文も引用しながら、ICRP (国際放射線防護委員会) を含む、今までの国際機関や政府による放射線防護基準がいかに甘いものであるかが科学的に詳述されています。